

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 南丹市立園部中学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	<p>(1) 講演会 南丹市立園部中学校全校生徒 (382名) 教職員 (35名) 南丹市立園部第二小学校6年生 (30名) 南丹市立園部小学校5年生 (86名)</p> <p>(2) 実技講習会 南丹市立園部中学校 希望者 (100名)</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 (実技講習会)</p>
4 目標 (ねらい)	<p>オリンピック・パラリンピック精神の理解と、オリンピックの生き方に触れることで自分自身を振り返り、より高い目標を目指し、希望を持ってやり抜く強い意志を育てる。</p> <p>また、オリンピックに3大会出場を果たした、銀メダリストの高平慎士氏からの講演を通して東京オリンピック・パラリンピックに向けての興味・関心を高めるきっかけとしたい。</p>
5 取組内容	<p>(1) 生徒会の取組</p> <p>① 世界とつながろうキャンペーン アルミ缶を回収し、換金した金額をユニセフを通じて募金することにより国際貢献につながる活動に取り組んだ。東京オリンピック・パラリンピックを前に、生徒たちの目を世界に向ける機会となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

(2) 事前学習の実施

① オリンピック・パラリンピックの歴史についてのDVD視聴
スポーツ庁作成の「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を用い、オリンピック・パラリンピックの歴史についての理解を図った。

② 壁新聞の作成

陸上競技部を中心にオリンピック・パラリンピックに関してまとめた新聞を作成・掲示した。また、講師の高平慎士氏の略歴を掲示した。



③ 講師の高平慎士氏の紹介DVDの放映

2004年アテネ、2008年北京、2012ロンドンオリンピックで活躍されている高平氏の映像を編集し、校内放送にて放映をした。特に北京オリンピック4×100mリレーでは、日本短距離界で初めてのメダルを獲得したこともあり、レースの様子も含めて放映した。また、DVDを見て、高平氏に質問したい内容を事前にワークシートに記入させた。

(3) 講演会の実施

日時 令和2年10月20日(火) 14:35~15:35

演題 「高平慎士氏の生き方に学ぶ」

講師 富士通株式会社 陸上競技部 コーチ

2004年北京五輪4×100mリレー銀メダリスト

高平 慎士 氏

講演内容

運動部の代表生徒2名が登壇し、事前に全校生徒から収集した質問を中心にインタビュー形式で行った。

中学生時代のことからオリンピックでのメダルを獲得するまでの心境やメンタル面の保ち方、コロナ禍において当たり前が当たり前でない世界にどう対応していくのか等幅広い視点で講演をしていただいた。その後、生徒には感想を記入させた。



(生徒の感想から)

• 高平さんは世界で戦ってきた人なのにライバルは「自分自身」ということでいかに、自分と戦ってきたかがわかりました。その結果が、北京オリンピックでの銀メダルなんだと思いました。

私は今年、コロナウイルスが流行り、「当たり前のことが当た

り前ではない」という状況を実感し、高平さんの言われていた「色々なことに感謝すること」という言葉が心に染みしました。こんな時だからこそ、今まで普通にしていたこと、感じていたことを見直すきっかけにしたいと思います。

•高平さんの「常識にとらわれず、色々なことに打ち込むことを大切にしてい前向きに努力する」という言葉が印象に残りました。特に「常識にとらわれず」という部分は、深く考えさせられました。いつも通りがいつも通りでなくなった今だからこそ感じる言葉です。そして、何事にも前向きに頑張ることが、今後の自分の成長になるのだと思いました。

•「今、見えている景色を大切にすること」という言葉があり、その時、その時に感じた感情を大切にすることが、自分を振り返る財産になるのかなと高平さんの話を聞いて感じました。中学生は人生でもこの3年間しかありません。自分がその時、どう感じたのか、自分は何をするべきなのかをしっかりと判断できるようになりたいと思いました。

また、教室に来ていただき、オリンピックの銀メダルに触れさせてもらいました。多くの人が見たり、触ったりすることのないメダルを間近に見られてよかったです。

(4) 実技講習会の実施

日時 令和2年10月20日(火)

場所 南丹市園部公園陸上競技場

対象 本校陸上競技部、野球部、男子バスケットボール部
サッカー部 計100名

指導内容

高平氏による陸上教室として、走るための動きづくりや様々な走り方を体験し、自分の得意、不得意をよく知り、自分でよく考えながら動くことを主眼としたトレーニングであった。

途中、消極的な動きが見られた生徒には「トップ選手も失敗から学ぶ。まずはチャレンジすることが大切」と声をかけられ、終始温かい雰囲気で行うことができた。

高平氏自身もオリンピックを3度出場されたが、「出場した時間は約180秒。本番で最大限の力を発揮するためにどうしたらよいかを考え、練習のための練習にならないことを考えていた」とのことを生徒たちに伝えてもらい、生徒たちは真剣な表情で聞き入っていた。



	<p>(5) 事後学習の実施</p> <p>高平氏への感想文を送付し、講演会では時間の都合上、質疑応答の時間をとることができなかったため、感想文に書かれていた質問に答えてもらう形をとった。高平氏からはA4サイズで12枚に渡る回答を頂き、共有スペースに掲示をした。生徒たちは熱心に見入っていた。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • 1、2年生は部活動の新人大会の最中であり、3年生は大きな行事を終えて、受験勉強に頑張っている時期であった。「本番で力を発揮するためにはどうしたら良いのか」等スポーツだけではなく、日常生活にも通じる講演であったため、前向きな学校生活を送ろうとする生徒の姿が見られた。 • この事業は3年連続になるが、教員側のオリンピック・パラリンピックに関わる意識も向上しつつある。昨年に引き続き、道徳や国際理解教育など様々な分野から世界に視点を向けた授業展開を行っている。本年度は生徒会の取組を含め活動できたことは大きな成果である。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 講演会だけの単発的な事業ではなく、各学年で国際理解に関わる内容やオリンピック・パラリンピックに関する内容を教科や領域で意図的に入れることで、年間を通じた活動とすることができた。 • コロナ禍ということもあり、一時はオンラインでの開催も検討したが、高平氏も本校に来校しての講演にこだわって頂き、感染対策を万全にとった上で開催することができた。本来は、体育館にて全員で講演を聞く予定であったが、園部第二小学校6年生と本校1・2年生を体育館で、本校3年生と園部小学校5年生はテレビ会議システムを使って別会場でそれぞれ講演を聞いた。 • 近隣小学校と合同で開催したことにより、校種間を超えた交流を行うことができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 実施にあたり、校内での指導体制の確立をどうしていくのか。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 来年度もオリンピック・パラリンピックに出場した選手からの講演会を取組の柱として、教育課程のバランスを考え、年間を通して教科横断的な活動として本校のオリパラ教育を確立させていきたい。

五輪銀メダリスト 園部中生陸上指導

上達へ「自分図鑑」作りを



高平さん(右から3人目)の指導を受けながら走る生徒―南丹市園部町・園部公園陸上競技場

2008年北京五輪陸上男子400メートルリレーで銀メダルに輝いた高平慎士さん(36)―富士連陸上部コーチが、南丹市園部町の園部公園陸上競技場での園部中の生徒を対象とした陸上教室を開いた。得意不得意をよく知って「自分という図鑑」を作ることがスポーツが上達する第一歩だと伝えた。

1〜3年生の希望者100人が参加した。体つきや成長が個々に異なるのを念頭に、「準備運動でも、人と同じことをしていてもいなか」と、考えながら体を動かす大切さを指摘した。腕を速く振る一方、足は動かす大切さを指摘した。記録を伸ばしたい」と話した。(陰山篤志)

2008年北京五輪陸上男子400メートルリレーするものに指示し、うまく走れぬ選手も失敗から学ぶ」と強調。人に勝る部分や劣る点を分析して、「自分という図鑑を作つてほしい。自分を知らなければつまらぬ」と訴えた。

教室に先立つ講演会では「3度田た五輪で走った時間は180秒。本番でどう力を発揮するかを考えて練習するのが大事」とした。陸上部の短距離選手で2年の小寺恭平さん(14)は「助言を練習に取り入れて

得意、不得意 よく知ろう